

## 4 參考資料

## 教職員能力開発

### ○ Off-JT 型教職員研修一覧

(単位:人)

No.	日時	研修名	担当者	会場	参加者数
1	平成 25 年 4 月 22 日	SP トランプ入門	香川大学 野口	佐賀大学	31
2	平成 25 年 7 月 1 日	リスクマネジメント	愛媛大学 秦	広島経済大学	28
3	平成 25 年 10 月 21 日	台湾研修・サマースクール・サイパン研修 を通じた能力開発手法の共有	愛媛大学 秦	京都文教大学	32
4	平成 26 年 1 月 23 日	周囲を巻き込む求心力	愛媛大学 秦	愛媛大学	35
5	平成 26 年 4 月 21 日	アイスブレイク～参加者全員で一体感を持 たせるための事例紹介と実践～	愛媛大学 林	愛媛大学	17
6	平成 26 年 7 月 16 日	UNGL 振り返り手法セミナー	九州国際大学 鈴木	京都光華女子 大学	17
7	平成 26 年 10 月 21 日	リーダーシップとその発達	松山大学 泉谷	熊本学園大学	19
8	平成 27 年 3 月 26 日	学生が陥りやすいワナ (プロジェクトマネジメント)	京都外国語大学 岸岡	愛媛大学	14
9	平成 27 年 9 月 11 日	リーダーシップ研修を円滑に実施する ための各大学の体制	佐賀大学 山内	松山大学	15
10	平成 27 年 12 月 21 日	UNGL における研修プログラム作りの標準 化のための知識共有 ～ワールドカフェを通じた知の共有～	佐賀大学 山内	愛媛大学	16
11	平成 28 年 2 月 25 日	UNGL における研修プログラムのつくり方 ～UNGL のアングル Vol. 2 の活用～	愛媛大学 村田 佐賀大学 山内	愛媛大学	12
12	平成 28 年 7 月 28 日	自大学で UNGL の安定的・継続的な運営を 図るアイデアー連携校の事例からー	愛媛大学 村田	追手門学院大学	23
13	平成 28 年 10 月 25 日	レゴ®を使った振り返りの質を高める方法	佐賀大学 山内	山口大学	20

※ 平成 29 年 3 月 15 日に第 14 回目のプログラムを実施予定

### ○ OJT 型教職員研修実施プログラム

- ・Basic Program 学生リーダーズ・サマースクール
- ・Basic Program 学生リーダーズ・ウィンタースクール
- ・Basic Program 学生リーダーズ・スプリングスクール
- ・Intermediate Program リーダーシップ・チャレンジ in 韓国
- ・Intermediate Program リーダーシップ・チャレンジ in サイパン
- ・Advanced Program リーダーシップ・チャレンジ in 台湾

## 教材等一覧

### ○教材

No.	タイトル	概要
1	UNGL のアングル vol.1 ～「振り返り」手法編～	UNGL で実施する研修において、学生の指導や「振り返り」を促す教職員及び学生スタッフ用に、「問題解決に必要な知識」や「指導時のポイント」をまとめたもの。
2	UNGL のアングル vol.2 ～研修プログラムのつくり方～	UNGL における研修プログラムを企画・運営する上で特徴的なポイントについて、その理論的な背景に触れながら解説・要点をまとめたもの。



### ○映像教材

No.	タイトル	概要
1	UNGL 西日本学生リーダーズ・スクール 紹介 DVD	本取組のフレームワークについて、連携校内外に周知する事を目的として作成。教職員・学生に本取組への理解を深化させ、本プログラムへの参加を促すために使用。
2	愛媛大学リーダーズ・スクール合宿 「振り返りのポイント・ダイジェスト」	組織の目標達成のために責任を持って行動し、大学の活性化や社会づくりに貢献する学生リーダーの輩出を目的とした「愛媛大学リーダーズ・スクール (ELS)」における「振り返り」を用いた教育手法を収録。
3	学生リーダーズ・サマースクール	複数名の構成メンバーとともに、物資や情報が限られた環境下で仲間と協力しながら、予期せぬ様々なミッションに取り組む活動と、それに対する観察者・指導者からのフィードバック並びにメンバー間での批評的リフレクションを通してリーダーシップを涵養する研修について収録。

4	リーダーシップ・チャレンジ in 韓国	価値観、立場、文化背景などが異なる組織での協働活動を通して、学生がリーダーシップに係るスキル・知識・態度等を身につけることを狙いとしている韓国での研修について収録。
5	リーダーシップ・チャレンジ in サイパン	グローバル人材に必須の国際経験を現地の小中学校等での実習や社会貢献活動、ホームステイなどを通して涵養することを目的としているサイパンでの研修について収録。
6	リーダーシップ・チャレンジ in 台湾	複数の国から大学生が集まり、発表・討議・交流を通して、リーダーシップ、国際的なコミュニケーション力、異文化理解力を養うことを目的としている台湾での研修について収録。
7	リーダーシップ・チャレンジ in ハワイ (プログラム開発編)	「フィールド部会」を中心とした、学生リーダーシップ養成の新規フィールド開拓並びにプログラム開発の様子を収録。
8	学生への振り返り指導ティップス ～学生の自発的な気づきと効果的な成長を促すために～	UNGL の特徴である「振り返り」を用いた教育手法とその効果性について、具体的な場面ごとに実例を挙げつつ紹介。教職員の能力開発に資するよう、参加学生のどこに着目して観察し、どのように振り返りを誘導すれば学生が気づきを得られるよう促すことができるのか、時系列に沿ってチェックすべきポイントを詳細に解説。
9	UNGL のアングル vol.1 ～「振り返り」手法編～	UNGL で実施する研修において、学生の指導や「振り返り」を促す教職員及び学生スタッフ用に、「問題解決に必要な知識」や「指導時のポイント」をまとめたもの。
10	UNGL のアングル vol.2 ～研修プログラムの作り方～	UNGL における研修プログラムを企画・運営する上で特徴的なポイントについて、その理論的な背景に触れながら解説・要点をまとめたもの。



## 連携校共同会議等の開催状況

	月日	開催場所
○平成 24 年度		
第 1 回	10/12	愛媛大学
第 2 回	11/30	九州国際大学
第 3 回	12/18	山口大学
第 4 回	1/14	京都外国語大学
第 5 回	2/19	松山大学
○平成 25 年度		
第 1 回	4/22	佐賀大学
第 2 回	7/1	広島経済大学
第 3 回	10/21	京都文教大学
第 4 回	1/14	香川大学
○平成 26 年度		
第 1 回	4/21	愛媛大学
第 2 回	7/15	京都光華女子大学
第 3 回	10/20	熊本学園大学
第 4 回	3/26	愛媛大学
○平成 27 年度		
第 1 回	9/11	松山大学
第 2 回	12/21	愛媛大学
第 3 回	2/25	愛媛大学
○平成 28 年度		
第 1 回	7/27	追手門学院大学
第 2 回	10/24	山口大学
第 3 回	3/15	愛媛大学 (予定)

## 事業評価委員会の開催状況

	月日	開催場所
平成 25 年度	3/27	愛媛大学
平成 26 年度	3/26	愛媛大学
平成 27 年度	3/18	愛媛大学
平成 28 年度	3/14	愛媛大学 (予定)

## 学会発表

1. 岸岡洋介・泉谷道子・秦敬治・阿濱志保里「大学間連携による継続的學生リーダーシップ育成に関する取組」大学行政管理学会第16回定期総会・研究集会、平成24年9月。
2. 山内一祥・泉谷道子・林真輝・鈴木理絵・仲道雅輝・津曲陽子・岸岡洋介・秦敬治「學生リーダーシップ養成における学びのサイクルに関する考察」大学教育学会第35回大会、平成25年6月。
3. 秦敬治・鈴木理絵・泉谷道子・津曲陽子・林真輝・岸岡洋介・仲道雅輝・山崎その「學生リーダーシップ養成に関する評価指標策定に関する考察」大学教育学会第35回大会、平成25年6月。
4. 津曲陽子・林真輝・岸岡洋介「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラムについて」大学行政管理学会第17回定期総会・研究集会、平成25年9月。
5. 岸岡洋介・山中亮・林真輝・村田晋也・松岡陽子・泉谷道子・鈴木理絵・奥村恵美子・山内一祥・秦敬治「學生・教職員の学びを促進するリーダーシップ教育を通じた『能力開発手法』に関する考察」大学教育学会第36回大会、平成26年6月。
6. 泉谷道子「大学間連携で実現する立場・世代・文化を超えるリーダーシップ養成プログラム」立教大学カンファレンス、平成26年7月。
7. 秦敬治・泉谷道子・岸岡洋介・松岡陽子・鈴木理絵・山中亮・林真輝 “Japan Country Report: University Network for Global Leadership Development in West Japan”, 2014 Asia Pacific Student Service Association International Conference, 平成26年8月。
8. 山中亮・林真輝「大学間の連携によるプログラムの創造と実施によってもたらされる効果」大学行政管理学会第18回定期総会・研究集会、平成26年9月。
9. 岸岡洋介・鈴木理絵・山内一祥・松岡陽子・泉谷道子・村田晋也・秦敬治「大学間連携で取り組む學生リーダーシップ養成における教職員スタッフの能力開発について」、大学教育学会2015年度課題研究集会、平成27年11月。
10. 山内一祥・岸岡洋介・村田晋也・秦敬治「『経験を学びに変える』リーダーシップ養成プログラムについて」平成28年6月。

11. 岸岡洋介・山崎その・中嶋大輔・村岡孝之「学生のリーダーシップ養成を目指したプログラム手法に関する考察」平成 28 年 6 月。
12. 岸岡洋介・山内一祥・村田晋也・鈴木理絵・秦敬治「経験を学びに変える～『気づきを促す』教職員の能力開発手法に着目して～」、大学教育学会 2016 年度課題研究集会、平成 28 年 12 月。

## 関連論文

1. 村岡治道・鈴木理絵・秦敬治・小江茂徳・宇都宮浩司・山内一祥・浅田隼平「大学生を対象とした防災教育の試みと検証—ビジネスリーダーコースの研修を通じて—」『九州国際大学 経営経済論集』九州国際大学経済学会、第 22 巻第 1 号、1-21 頁(平成 27 年 10 月刊行)

## その他

1. 村田晋也・小林直人（「正課教育、準正課外教育、正課外活動—「愛大生コンピテンシー」の育成のために—」）『大学時報』、一般社団法人日本私立大学連盟、第 364 号、50-55 頁（平成 27 年 9 月刊行）
2. 村田晋也 事例報告及びパネルディスカッションパネリスト（大学間連携共同教育推進事業選定取組全国シンポジウム in 金沢～その成果と今後～、平成 29 年 2 月 28 日、金沢東急ホテル）

## 大学間連携共同教育推進事業

### 「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」事業実施規程

平成26年12月5日  
制 定

#### (趣旨)

第1条 この規程は、平成24年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業に採択された「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」事業の内容及び役割分担等に関し、共同事業契約書第1条第4号に基づき、必要な事項を定めるものとする。

#### (名称)

第2条 共同事業契約書第1条第3号に定める「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」の呼称は「西日本学生リーダーズ・スクール」とし、略称は「UNGL」とする。

2 英語表記は、「University Network for Global Leadership Development in West Japan」とする。

#### (目的)

第3条 UNGLは、学生が立場・世代・文化の異なりを超えた「学内→国内→2国間→多国間」の段階的な「異文化交流」など、地域や国際社会で活躍するために求められるリーダーシップを体系的・継続的に養うプログラムを実施することにより、学び続けるリーダーを輩出することを目的とする。

#### (事業)

第4条 UNGLは、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 体系的・段階的・継続的な学生リーダーシップ養成プログラムの開発及び実施
- (2) 経験を学びに変える省察手法の標準化
- (3) 持続的な学生リーダーシップ養成のための教職員能力開発
- (4) リーダーシップを培うための多様なフィールドの提供
- (5) その他 UNGL の目的を達成するために必要な事業

#### (連携校)

第5条 第3条に規定する UNGL 事業の目的を実現するため、共同事業契約を結んだ大学及び短期大学を UNGL 連携校（以下「連携校」という。）とする。

2 第9条に規定する連携校共同会議が新たな大学及び短期大学等（以下「大学等」という。）と連携することが望ましいと判断した場合は、文部科学省の承認を経て、当該大学等を連携校とすることができる。なお、文部科学省の承認を得るまでの期間は協力校と称することとする。

3 連携校は、連携・分担して UNGL 事業を実施する。



(連携機関)

第6条 別表第1に定める連携機関をUNGLステークホルダー(以下「ステークホルダー」という。)とする。

2 ステークホルダーは、第3条に規定する目的を達成するために連携校と連携する。  
(代表校及び事業推進責任者等)

第7条 UNGLに代表校を置き、愛媛大学をもって充てる。

2 代表校にUNGL事業推進責任者及び事務局を置く。  
(コア校)

第8条 連携校のうち、別表第2に定める大学をコア校とする。

2 コア校は、当該地域のネットワークを形成して、当該地域のUNGL事業の円滑な運営に努めるものとする。

(連携校共同会議)

第9条 UNGL事業の重要事項を審議するため、連携校共同会議(以下「会議」という。)を置く。

2 会議に関し必要な事項は、別に定める。  
(事業評価委員会)

第10条 UNGL事業の適切な運営及び推進に資するため、事業評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。  
(雑則)

第11条 共同事業契約書及び大学間連携共同教育推進事業の共同実施に関する協定書並びにこの規程に定めるもののほか、必要な事項は、会議が別に定める。

附 則

この規程は、平成26年12月5日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年9月11日から施行する。

別表第1（第6条第1項関係）

連携機関名
公益社団法人松山青年会議所
公益財団法人えひめ女性財団
NPO 法人 F ネット愛媛
アジア太平洋学生支援協会（APSSA）
一般社団法人大学教育学会
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

別表第2（第8条第1項関係）

地域名	大学等名
関西地域	京都外国語大学
中国地域	山口大学
四国地域	松山大学
九州地域	九州国際大学

## 大学間連携共同教育推進事業

### 「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」連携校共同会議規程

〔平成24年11月30日  
制 定〕

#### (趣旨)

第1条 この規程は、大学間連携共同教育推進事業「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」事業実施規程（以下「規程」という。）第9条第2項の規定に基づき、連携校共同会議（以下「会議」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

#### (審議事項)

第2条 会議は、規程第4条に規定する「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」（以下「UNGL」という。）の事業に関する重要事項を審議する。

#### (組織)

第3条 会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) UNGL事業推進責任者
- (2) 代表校及び連携校から推薦された者
- (3) その他議長が特に必要と認めた者で会議の承認を得た者

#### (議長)

第4条 会議に議長を置き、UNGL事業推進責任者をもって充てる。

- 2 議長は、会議を招集し、主宰する。
- 3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。

#### (議事)

第5条 会議は、連携校の過半数から出席がなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、連携する大学等一校あたり一票の票決によって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

#### (委員以外の者の出席)

第6条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

#### (コアスタッフ会議)

第7条 会議に、円滑な事業運営を図るため、コアスタッフ会議を置く。

- 2 コアスタッフ会議は、代表校及び規程第8条第1項に規定するコア校の者をもって組織する。
- 3 代表校が必要と認めるときは、規定メンバー以外の者を出席させることができる。

#### (部会)

第8条 会議の下に、次の部会を置く。

- (1) 学生部会

(2) 教職員部会

(3) フィールド部会

(4) 評価部会

2 各部会を運営する連携校・協力校は、別図のとおりとする。

3 各部会は、規程第4条に規定する事業の専門事項を調査又は検討し、会議に提案又は報告する。

(事務)

第9条 会議に関する事務は、愛媛大学教育学生支援部教育企画課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、会議が別に定める。

附 則

この規程は、平成24年11月30日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年12月5日から施行する。

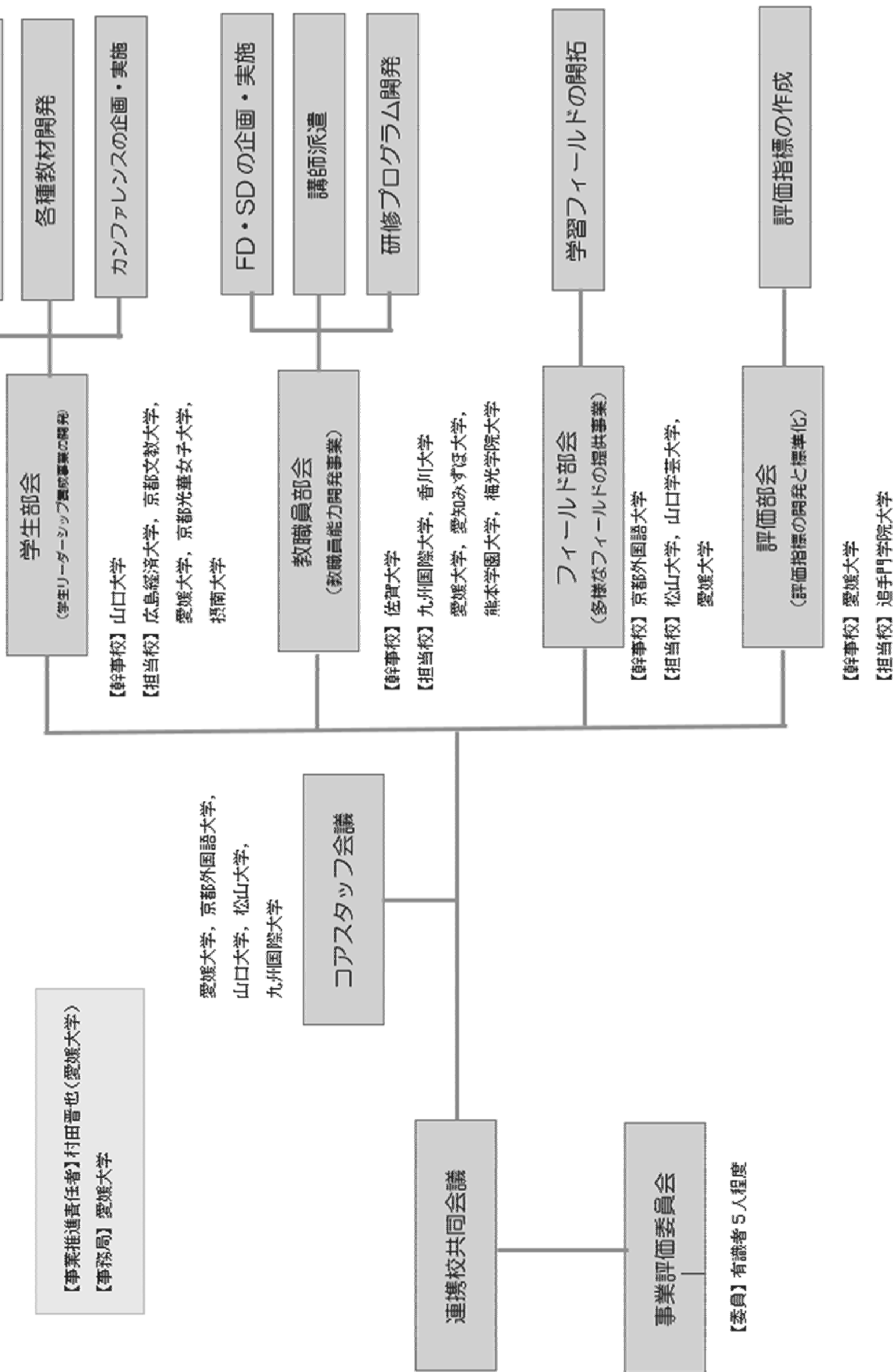
附 則

この規程は、平成27年3月26日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年9月11日から施行する。

大学間連携共同教育推進事業  
「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」  
運営体制



大学間連携共同教育推進事業

「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」事業評価委員会規程

平成24年12月18日  
制 定

(趣旨)

第1条 この規程は、大学間連携共同教育推進事業「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」事業実施規程（以下「規程」という。）第10条第2項の規定に基づき、事業評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 委員会は、規程第4条に規定する事業（以下「事業」という。）の評価及び助言等を行い、もって事業の適切な運営及び推進に資することを目的とする。

(組織及び運営)

第3条 委員会は、規程第5条第1項ならびに第2項に規定する連携校の職員以外の有識者5名程度の委員をもって組織する。

2 前項の委員は、大学間連携共同教育推進事業「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」連携校共同会議の議を経て、代表校の事業推進代表者が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は、委員会を招集し、主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(開催)

第6条 委員会は、必要に応じて開催する。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(秘密情報の保持)

第8条 委員は、評価の過程で知り得た秘密情報を漏らしてはならない。委員を退いた後も、同様とする。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、愛媛大学教育学生支援部教育企画課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成24年12月18日から施行する。

2 この規程の施行後、最初に任命される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成26年12月5日から施行する。

平成 25～28 年度

大学間連携共同教育推進事業

「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」

事業評価委員会委員名簿

近田 政博 神戸大学大学教育推進機構 教授

難波 克己 玉川大学 TAP センター長，教授

岡田 和徳 公益社団法人松山青年会議所 理事長

越智 やよい 公益財団法人えひめ女性財団 常務理事

中野 仁栄 株式会社KE I N S 代表取締役

(計 5 名 順不同)

役職名は平成 28 年度のもの

大学間連携共同教育推進事業

「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」申合せ

平成26年12月5日  
制 定

(趣旨)

第1 この申合せは、大学間連携共同教育推進事業「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム」事業実施規程第11条の規定に基づき、事業の運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(教職員スタッフ)

第2 UNGL事業において、学生教育に携わる教職員又は学生を引率する連携校の教職員を「教職員スタッフ」という。

2 UNGL事業に学生を派遣する連携校は、原則として教職員スタッフを参加させるものとする。ただし、事務局と協議し、プログラムの運営上問題がないと判断される場合は、この限りでない。

(学生スタッフ)

第3 UNGL事業において、参加学生の学びを支援する連携校・協力校の学生を「学生スタッフ」という。

2 学生スタッフは原則として、次のいずれかを満たす連携校の学生とする。

- ① 過去にUNGL事業のプログラムに参加したことのある学生
- ② 連携校の教職員スタッフが推薦する学生

(危機管理)

第4 UNGL事業のプログラムにおいて、参加学生への危機管理対応は当該学生が所属する大学の定める規程に従うものとし、UNGLはこれに対して一切の責任を負わない。

(事業実施報告及び出張報告等)

第5 主となってUNGL事業を実施した大学等は、別紙様式1により、事業の実施状況等を記した報告書を作成し、連携校で共有することとする。

2 講演会や研修会など、UNGL事業に資する情報を得るために出張した者は、別紙様式2により、得た情報や知見を記した報告書を作成し、連携校で共有することとする。

(UNGL予算計上方針)

第6 UNGL予算の計上方針(優先順位)は次のとおりとする。

- (1) 補助金で雇用している教職員の人件費
- (2) UNGL事業実施に係る経費
- (3) UNGL連携校共同会議に係る経費
- (4) 学生のプログラム参加に必要なバスや施設の借上料

(UNGLロゴマーク)

第7 UNGLロゴマークは別紙のとおりとする。

附 則

この申合せは、平成26年12月5日から施行する。

附 則

この申合せは、平成27年9月11日から施行する。



## UNGL 事業報告書

提出日：平成 年 月 日

プログラム名	○○Program (Basic, Intermediate, Advanced のいずれかを明記する。Century 半角, 11pt) <b>実施プログラム名 (MS ゴシック, 14pt)</b>			
実施日	(MS 明朝, 英数字は Century 半角, 12pt)			
実施先	(MS 明朝, 英数字は Century 半角, 12pt)			
参加者	大学名 (MS 明朝, 10.5pt)	教職員	学生スタッフ	学生
	合計			
研修の目的 および 研修の概要	<p>(400 字程度。MS 明朝, 英数字は Century 半角, 10.5pt)</p> <p>*研修の中で参加者がどのような活動を行い, その結果どのようなリーダーシップを養うことを企図しているのかについて記述してください。</p> <p>【記述例】サマースクール 2014</p> <p>本研修は, UNGL Basic プログラムとして開催された。本研修では, チームの目標を達成するために, チームの中での自分自身の役割を認識しながら, 変化する状況に対応できる実践的なリーダーシップを身につけること, 物資や情報が限られた, 追い込まれた状況の中で生き抜く力を養うことを目的として開催された。</p> <p>開催期間は, 3 日間であり, その間参加学生は 1 チーム 5~6 名のチームに分かれ, 日常とは異なる不自由な環境 (島での生活), 物資や情報が限られた (サバイバル) 状況において, 仲間と協力しながら, 予期せぬ様々なミッションに取り組み, 最終目標に向かって協働した。その過程の中で, メンバーそれぞれの言動について, 「チームの目的を達成するためのリーダーシップ」という観点から学生スタッフおよび教職員スタッフによるフィードバックを受けるほか, メンバー間で相互に批評的な振り返りを行い, 自分自身に求められる実践的なリーダーシップを身につけた。(408 文字)</p>			

<p>プログラムの 到達目標</p>	<p>(簡条書きで3～5項目程度。MS明朝，英数字はCentury半角，10.5pt) 例)</p> <p>(1) ●●●●●●●●●●●●●●●●●●</p> <p>(2) ●●●●●●●●●●●●●●●●●●</p> <p>(3) ●●●●●●●●●●●●●●●●●●</p>													
<p>プログラムの 具体的な内容・ 実施日程</p>	<p>(MS明朝，英数字はCentury半角，10.5pt)</p> <p>1. スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="488 595 1425 864"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>時間</th> <th>取組内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">●月●日 (●曜日)</td> <td>8:00</td> <td>参加者受付</td> </tr> <tr> <td>13:00～15:00</td> <td>歴史・文化施設の見学 (Banzai Cliff ほか)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">●月●日 (●曜日)</td> <td>8:30</td> <td>●●</td> </tr> <tr> <td>9:00 - 10:00</td> <td>教職員スタッフ・ミーティング</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 主立った取組内容</p> <p>*スケジュール表の中の取組のうち，主立ったものについて，実際にどのようなことが行われたかを，トピックごとにまとめて記述してください。 *必要な場合は適宜写真を挿入し，見てわかりやすいものになるようにしてください。</p>	日程	時間	取組内容	●月●日 (●曜日)	8:00	参加者受付	13:00～15:00	歴史・文化施設の見学 (Banzai Cliff ほか)	●月●日 (●曜日)	8:30	●●	9:00 - 10:00	教職員スタッフ・ミーティング
日程	時間	取組内容												
●月●日 (●曜日)	8:00	参加者受付												
	13:00～15:00	歴史・文化施設の見学 (Banzai Cliff ほか)												
●月●日 (●曜日)	8:30	●●												
	9:00 - 10:00	教職員スタッフ・ミーティング												
<p>プログラムの 成果</p>	<p>(MS明朝，英数字はCentury半角，10.5pt)</p> <p>*アンケート等を実施した場合は，その結果をもとに数値データを記載してください。アンケート未実施の場合は，学生のコメント・感想等を記載してください。</p>													
<p>報告者</p>	<p>〇〇大学〇〇学部 愛大 太郎</p>													

## UNGL出張報告書

提出日：平成 年 月 日

報告者	(MS 明朝, 英数字は Century 半角, 10.5pt)
出張期間	(同上)
出張先	(同上)
同行者	(同上)
出張用務 (目的)	(同上)
出張の内容	(MS 明朝, 英数字は Century 半角, 10.5pt)  【記載事項例】 ※ 旅程について ※ 出張先での業務内容について ※ 出張業務から得た成果等について

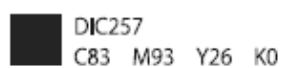
## 別紙

縦のラインは上昇（飛躍）を、  
UNGLの下部の曲線は地球（世界）を意味する。  
鋭角な頂点は世界で活躍できるリーダーシップを表現。

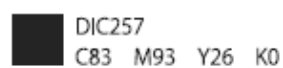


## 1色の場合

【グラデーションあり】



【グラデーションなし】





文部科学省 大学間連携共同教育推進事業

西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム

代表校 愛媛大学

教育・学生支援機構教育企画室

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

TEL 089-927-8900 FAX 089-927-8922

URL <http://ungl.opar.ehime-u.ac.jp/>